

はれっと

2006

11

NO. 87

報告

特集

利用票に見るサポセン利用者の本音！

さぼせん広場 拡大版

新サポセンオープニングイベント報告

9/16 徹底検証 NPOの未来は？

9/30 アートNPOの可能性

11月のイベント紹介

NPOマネジメントワークショップ受講者募集

雰囲気は変わっても…



5階交流サロンの様子

新しくなったサポセンの交流サロンは、3・5・7階の3ヶ所にあります。メインは5階で、ロッカーが併設されているほか、インターネットに接続できるスペースもあります。ガラス張りなので外の眺めは良いですし、他にも壁が大理石だったり、本町サポセンと比べて洗練された雰囲気がなりました。けれど、この交流サロンが市民活動に関わっている皆さんのフリースペースであり、交流の場であることに変わりはありません。どうやら今日もたくさんの方で賑わっているようです。さて、どんな出会いが生まれるかワクワクしませんか？

はれっとは、市内の公共施設、県内NPO支援センターなどに毎月3000部送付しています。

利用票に見るサポセン利用者の本音！

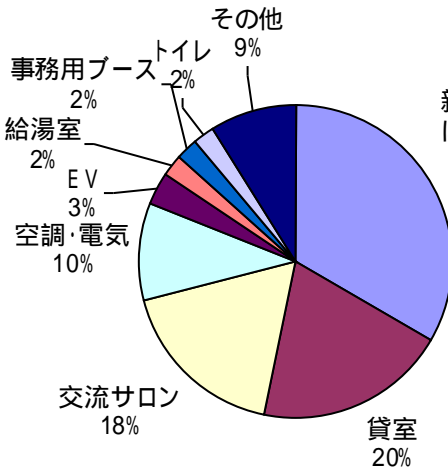
新サポ初

さぼせん広場 拡大版

さぼせん広場とは、毎日サポセンへ提出されている利用票（右ページ参照）に書かれた意見・感想に対し、スタッフがみなさんにお答えするコーナーです。通常、ぱれっとの最終ページにあります。今回は9月の移転後に利用票からさまざまな意見・感想をいただきましたので、利用者が本町サポセンから新サポセンへ移転したことにどういった感想を持っているのかなど、たくさんの利用票のなかから2ページに渡ってその一部を紹介します。

今回ご紹介する「さぼせん広場拡大版」の元になったご意見は、06年9月1日～9月28日にサポートセンターを利用したみなさんからご提出いただいた利用票を集計したものです。全部で、90件の意見・感想が寄せられました。内容を項目ごとに見ていくと、右のグラフのように分けられます。移転直後ということもあってか、新サポセンのハード面への感想が多かったです。第2位の貸室、第3位の交流サロンについても、使い心地や課題など、いろいろなお意見をいただきました。少数意見では「トイレがホテルみたいでステキ」「事務用ブースからの眺めが最高！」といったものもありました。今回は、多かった上位3項目について紹介します。

利用票に記入された項目



期間：9月1日～28日
総数：90件

新サポセン
についての
いろいろ
34%

第1位 新サポセンについてのいろいろ 30件

新サポセン全般に関する意見・感想いろいろを掲載しました。

新しいものは何でもいいですね。初使用なので気がつく事はできませんが、その内何か出て来るかもわかりません。第1回目気持ちよく使わせてもらいました。

新サポセンへようこそ。スタッフ一同、これからもみなさんに快適にご利用いただけるよう、運営してまいります。何かお気づきの際には、ぜひお声がけください。

誰にも教えられない場所としていいところだと思いました。ありがとうございました。

嬉しいご感想をありがとうございます。でも、サポセンは多くの人に利用されてこそ価値が出るもの。みなさん、どうぞ秘密にしないでください！

地下鉄の駅入口、出口の真上ということもあって、分かりやすいし、もうタクシーの運転手も知らないということはないだろうと思っています。(6年間のうち年5回ぐらい駅前あたりからタクシーに乗ってもサポセンをどの運転手も知りませんでした。)

本町サポセンは、タクシーの運転手さんも知りませんでしたか…。場所の説明もご苦労されたと思います。しかし、今度は広瀬通り沿い。もう迷うことはありませんね。目印は地下鉄広瀬通駅西5番出口前。タクシーの運転手さんも、もうわからないということはないでしょう。

他の項目から

新サポ設備について

ご意見ありがとうございます。EV内に給湯室の表示をいたします。また、茶器貸出の際にもスタッフよりご案内をしております。

EVの中に給湯室は4Fにしかないということを表示して欲しいです。

空調 - - - 寒かったです。

新サポセンでは、空調の温度設定を各フロアごとに管理しています。空調についてご要望がありましたら、1F事務局までお申し出ください。

ところで...利用票とは?

貸室や交流サロンなどでサポートセンターを利用したみなさんに、利用後に記入いただいているこの紙(左参照)が利用票です。団体名、利用時間のほか、何に使ったか・意見・感想を記入する欄があります。利用票はどのサービスがどのくらい利用されているか利用状況を把握するほか、利用者からの要望に対応できるよう実施しているものです。スタッフはこれを読んでサポセンのより良い運営に活かしていきます。小さい紙ですが、実は大切な役割を果たしているのです。これからも、そんな利用票にご記入をよろしくお願いします!

第2位 貸室 18件

市民活動団体のイベントや打ち合わせの会場に大活躍の貸室。果たして、新サポセン貸室への評価はいかに?!

きれいでとても良いと思います。机がきれいでした。部屋もきれいでした。部屋からの空がきれいでした。電気の明るさ加減がいいです。電球の形も好きです。部屋の広さがちょうどいいです。いやいやもう少し広くていいです。清潔。(研修室1)

ホメゴロシですね。スタッフも嬉しいです。部屋の広さは変えられませんが、今後もすてきな環境を提供できるよう努めてまいります。

入り口からきれいで、使いやすかったです。ただ、講演中に廊下を歩く方の声がちょっと騒がしかったのが気になりました。今後ともよろしく願いいたします。(研修室5)

スタッフへの労いのお言葉、ありがとうございます。雰囲気が一転し、格好良くなったサポセンの使い勝手はいかがでしょう。ご指摘のとおり料金は以前と同じようにはいきませんが、中身の機能では、これまで以上に頑張っていきたいと思います。どうぞよろしく願いいたします。

新しいサポセンは雰囲気もいままでとは違って新鮮です。料金が高くなったのは悲しいですが、これからも利用させていただきます。移転作業が大変だったと聞きました。みなさん、お疲れ様でした。

ご意見をありがとうございます。サポセンの貸室は壁がしっかりしているとはいえ、音を完全に遮断することはできません。多くの方が気持ちよく使えるよう、みなさんのご協力をお願いいたします。

第3位 交流サロン 16件

交流サロンは、市民活動団体や情報収集に来館した市民が集う場所。最もサポセンらしさを感じる場所かもしれません。新交流サロンの感想は?

交流サロンは、市民活動に携わるみなさんが少人数での打ち合わせのほか、利用者同士で交流できるフリースペースです。多くの方が利用するため、一人一人が快適に使えるよう、みなさんのご協力をお願いいたします。また、静かに打ち合わせをしたい時は貸室の使用をおすすめします。

移転してから初めて来ました。交流サロンを要受付にしたのは大変良いと思います。

交流サロンが予約制なのは面倒くさい。

交流サロンが(交流サロンなので当たり前ですが)みんなで使うのでうるさくて、ミーティングがしにくかった…。施設はきれいですごく良かった。

移転後、交流サロンは受付制になりました。予約は必要ありません。立地上、さまざまな方の利用が予想されるほか、事務局から離れたところにあるため、どのような団体に利用されているのか、ある程度把握させていただきたいからです。ご利用前に、1F受付にお声がけください。みなさんのご理解とご協力をお願いいたします。

交流サロンは5Fを主とし、3Fと7Fにもあります。ちょっと5Fがいっぱいだな...そう思ったら他の階ものぞいてみてください。ちなみにコートハンガーは5Fにもあります。

交流サロンは利用者みなさんのためのスペースです。そしてそれは貸室でも同じこと。特に3Fの交流サロンは貸室が隣接しているため、大きい音や声がでる利用には不向きです。みなさんが快適に利用できるよう、他の階のフリースペースを利用するなど使い分けをお願い致します。

3F交流サロンで話をしていたら、研修室2利用団体よりうるさいと注意を受けた。貸室に隣接した場所が交流サロンというのはいかがなものか?

初めての利用でしたが、7Fサロンで落ち着いて広々と気持ちよく会合を持つことができました。洋服がけが設置されているのも良いです。

新サポセンオープンイベント報告

ダイジェスト版

徹底検証 NPOの未来は？

一番町への移転オープンを記念して、9月に3回開催されたオープンイベント。前号に引き続き、9月16日、30日に行われたシンポジウムの様子のほんの一部をご報告します！

日時：2006年9月16日(土) 15:00～17:00

場所：仙台市市民活動サポートセンター B1F 市民活動シアター

基調講演 **川北 秀人さん** I I H O E [人と組織と地球のための国際研究所] 代表
シンポジウム パネリスト

小林 純子さん 特定非営利活動法人 MIYAGI子どもネットワーク 代表理事

針生 英一さん ハリウ コミュニケーションズ株式会社 代表取締役

相沢 良雄さん 仙台市企画市民局地域政策部地域活動推進課市民活動支援室 室長

コーディネーター **加藤 哲夫さん** (特活) せんだい・みやぎNPOセンター 代表理事

基調講演 ～川北秀人さん～

今日のテーマ「NPOの未来」をこれまでの15年間、これからの15年間の視点で考えていきたいと思えます。過去も現在も未来も、共通に考えなくてはならないのは、「NPOが社会の担い手として求められる力をどうつけていけばいいのか」ということです。市民にNPOの活動に参加してもらい、一緒に社会を変えていこうとする時に、市民の目から見て、私たち自身が信頼されているのかを確認しなければならない時期にきています。

これまでの15年間では、特区や指定管理者といった制度ができたり、介護保険や支援費などのように、市民団体が先行して社会の課題を解決しようと活動していたものが制度になったりしました。また、インターネットや携帯電話などによって、コミュニケーションもものすごく早くなりました。ボランティアに対する、社会の評価も変わってきました。例えば企業にとっては、ボランティアをする社員が多いことは、地域に貢献する企業として積極的に評価される時代になりました。これは大きな変化です。

シンポジウム

加藤：パネリストにそれぞれの活動の概要と川北さんのお話への感想や問題提起などをお願いします。

小林：団体を作ったのはいいけれど、現場は大変です。最近「私の定年っていつ？」とか、「次の世代にどう活動を渡していくの？」といった課題もあります。

現在、MIYAGI子どもネットワークを基盤にしてできたさまざまな団体と連携しながら活動しています。

「のびすく仙台」は仙台市で第1号の指定管理施設で、行政の方と一緒に作り上げてきました。児童館の指定管理を行うにあたっては、「チャイルドライン」の理念を生かしてきました。若いスタッフが希望をもって働ける職場にしていくことが課題だと思います。

相沢：仙台市の協働事業はだいが多くなりました。いまは、行政とNPOの二者の協働ということに特化されてき

ていて、もっと効果を高めようという方向にきています。でも、まだまだ市民協働の実が高まっていないのではないかと感じています。協働の目的をお互いにしっかり理解して、それを達成していくという姿勢が必要ではないかと思えます。

加藤：市民協働をじっくり考えようと思っていたところに、指定管理者制度ができて、制度が私たちを追い抜いていったという感じがありますね。では、NPOだけでなく、企業、地域のコミュニティとの協働について針生さんにお聞きします。

針生：私は印刷会社を経営するかたわら、さまざまなNPOの活動に携わってきました。そしてNPOとの協働で学んだのはミッションとかビジョンの共有が非常に大事だということです。同じ言葉をもたない、風土が違う、何を考えているのかわからない、ということからのスタートですから。でもそ

これからの15年間は高齢少子化の問題もありますし、2007年問題などもあります。協働もますます大事になってくると思います。協働とは、行政と市民が地域を共同経営するということです。もともとそれぞれが持っている力を足して、1+1が2以上にならないといけません。

一方企業は、本業の延長線上で自分たちに課せられている社会からの期待とか責任を、より具体的に果たしていかなければならなくなってくると思います。

市民社会というのは、市民が市民を信頼して、市民が市民と一緒につくっていく社会だと思います。今までの15年間は、NPOが社会の担い手となりえるために力をつけていこう、というのが課題でした。これからの15年間は力をつけるだけでなく、それがちゃんと信頼につながっていくような、わかりやすい情報公開などが必要になってくると思います。活動の現場を透明度高く見せていくことが大事なんじゃないかと思えます。

んな中で、お互いに知恵を出し合って1+1を2以上にするためには、時間をかけて信頼関係を作っていくことが大事だと思います。NPOから学んだことが企業経営にも活かされているなと感じます。

加藤：地域には、町内会やNPO、行政や企業などさまざまなアクターがいます。いろいろな活動やその関係者が、地域の問題を解決するためにはどうしたらいいのか、どうやって力を合わせていったらいいのか、という「つながり」の作り方を考えていかなければならないと思います。

また、市民協働を担える市民の育成というのは、どこの都市でもやっていないんですね。人材をどう育成していくのか。これは、NPOでも企業も言えることですが、担い手を育てていくことは今後の課題であると思えます。

新サポセンオープンイベント報告 ダイジェスト版

アートNPOの可能性 ~ 熱血アートプロデューサーが語る 120分 ~

日時：2006年9月30日(土) 14:00~16:00
シンポジウム パネリスト

場所：仙台市市民活動サポートセンター B1F 市民活動シアター

加藤 種男さん アサヒ芸術文化財団 事務局長
吉川 由美さん プロデューサー・演出家
コーディネーター 紅邑 晶子さん (特活) せんだい・みやぎNPOセンター 常務理事・事務局長

仙台、卸町でアートが人、まちをつなぎます。
~ 吉川由美さんのお話 ~

卸町は、約40年前に卸商が集まってできたまちです。数年前の規制緩和に伴い空き倉庫の敷地に大型店などが進出し、統一的な街の景観が変わってしまうのを恐れて組合が空き倉庫を買い取りました。2004年6月に組合長さんのゴーサインがでて、卸町の空き倉庫を活用して「はっぴい・はっぴ・プロジェクト」をスタートしました。

当初は、プロジェクトの目的や内容は理解されませんでした。でも、「はっぴい・はっぴ(カネのなる木)」の里親探しや、卸町へえへえウォーキングツアー、そして卸町とともに生きてきた方々などへのインタビューを作品化した「卸町四十年物語」の朗読会を開催するなどの企画を通して、最初は「懐疑的」だった卸町の企業の社長さんたちも、少しずつ参加してくれるようになり、笑顔が見られるようになってきました。

アートを介して、人と人、人とまちをつなぐことができると考えています。私たちのプロジェクトを通して、卸町が今後「世界にひとつしかないまち」になるためにどのように変われるのかをいろいろな人に考えてほしいと思います。この3年間は次のステップへのひとつのくぎりだと思っています。

シンポジウム

紅邑：おふたりは、いろいろな場所でアートプロジェクトを仕掛けていらっしゃるようですが、その際に何か立地などの条件はありますか？

吉川：卸町の場合、アートの場として空き倉庫がありました。そして、卸町には仙台の中心地では消えてしまった歴史がありました。まちの中にカフェを作ったり、並木道にブロンズ像を作るだけでは、人は集まってこない。わたしは卸町に住んでいるわけではない「よそ者」でしたが、このままでは他の町と同じになってしまうのではないかという危機感からプロジェクトが始まりました。

紅邑：お金では得られない価値を生み出すのに、アートはどんな役割を果たしましたか？

吉川：ひとつはコミュニケーション。社会儀礼としてのコミュニケーションはありましたが、それとは違うコミュ

ニケーションが生まれました。また、双方向的な五感に訴えるアートは人の心を動かし、行動させるための原動力になりうると思います。

加藤：「人はパンのみに生きるにあらず」、アートがなければ人は死ぬのです。仙台もまちの中の歴史のある店や場所を失ってきました。失ったものは取り戻せませんが、その代わりとなるものをいかに生み出せるかが重要ではないでしょうか。

紅邑：アートNPOの役割は？

加藤：アーティストたちは、作品の意味やなんのために作品をつくるか、などということは考えなくてもいいんです。でも、アートプロデューサーやコーディネーターは、「何のために」行うのかを説明できなければいけない。「自分のため」ではなく「ひとのため、社会のため」にどう役に立つのか、「社会にどんなあらたな価値を生

これからは自己表現の社会化が進んでいきます。

~ 加藤種男さんのお話 ~

私がアートという「わけのわからないもの」に仕事として付き合い始めて16年が経ちました。日本全国いろいろと見て回りましたが、民謡や踊りなど失われていくアートも多い。でも、地域で自発的に活動するアートNPOも増えてきています。また、「全国アートNPOフォーラム」や「アサヒ・アート・フェスティバル」なども、全国のアートNPOを支援するプログラムのひとつとして回を重ねています。

これまでのアートは、一人のアーティストが個人的な思いを形にして、社会に発信していくというのが中心でした。しかし、ブログなどの「仮設コミュニティ」への発信を通して自己表現を行っていくというような、新しい自己表現の形も生まれています。今後は、個人を超えて、グループもしくは組織として協働の創造的表現を市民社会に発信していく、という協働のアートが増えてくるのではないかと思います。

アートは受け手がいないと成立しませんので、アーティストと受け手をつなぐ、コーディネートする存在が必要だと思います。それが、アートNPOの役割ではないでしょうか。

み出すか」を考えなくてはいけないと思います。アートが好きだけではやれないのです。

紅邑：企業がまちとのかかわりを深めていくためにどんなことができると思われますか？

加藤：地域の役に立つと同時に企業ブランドの向上も目指さなければなりません。ブランドイコール信頼ですから、地域の企業ブランド力を高めていく必要があると思います。

吉川：卸町ブランドを作りたくなくなってきました。

紅邑：おふたりから市民活動シアターへのメッセージをお願いします。

吉川：市民活動にアートをからませて、表現上手になってほしいです。

加藤：さまざまな使い方があっていいので、いろいろ実験をして一つひとつ実現していったらいいと思います。

ここから始める!

イベント紹介

11月

サポートセンターで行われる、参加者募集中のイベントを紹介します。
原則として各団体に提出していただいた文章をそのまま掲載しています。
毎月5日締め切りで、翌月サポートセンターを会場に開催するイベント情報を募集しています。
ご希望の方はお問い合わせください。

10 / 27

市民ライター養成講座
参加者募集!

日時: 10月27日(金)
13:30~15:30

場所: 研修室1

内容: 編集者・ライターとして多くの発行物を手掛けている2名の方を講師として、書き方のコツを学びます。今、文章を書くのが苦手でも大丈夫。この講座を受けた後には、文章を書けるようになります。充実の2時間です。

参加費: 1,000円(事前申込必要)

主催: アレマ新聞部

問い合わせ:

TEL 090-7565-5880(葛西)

FAX 022-268-4042

(宛先にレターケースNo.75と明記のうえ送信)

10 / 29

“聴くこと”を学ぼう part
~相手の存在から受け取ること~

日時: 10月29日(日)
10:00~15:00

場所: 研修室5

内容: 聞くことの根底には、自分を知ること、表現することがあります。さらに聞くことは自己成長の機会を得ます。体験を通じて学び合う機会にご参加ください。

参加費: 一般3,500円
(事前申込必要)

主催: パッチネットワーク・東北

問い合わせ:

TEL&FAX 022-378-0832

(村上)

<http://asakaze.net/bnt/hmpass@md.nweb.ne.jp>

11 / 2 ~

フットケアセラピスト
養成講座夜間受講生募集

日時: 11月2・16日・12月7・21日(いずれも木曜)~
18:30~21:00

(全6回ですが、日時、期間など相談にのりますので、お問い合わせ下さい。)

場所: 研修室3

内容: リンパマッサージを身につけてあなたのこれからの人生を変えてみませんか?足裏からふくらはぎを中心に行う手技です。自分の健康管理やボランティアと幅広く活用出来ます。修了試験に合格すると認定証を発行させていただきます。

参加費: 37,000円(教材費・認定申請料・テキスト代含む)(事前申込必要)

主催: JRFA足市場 森照恵(JRFA公認講師)

問い合わせ:

TEL&FAX 022-223-9023

携帯 090-7564-9831(森)

11 / 3

ネパールの働く子どもたち~
子どもたちの可能性を信じて

日時: 11月3日(金)
14:00~16:00

場所: 研修室5

内容: 小松豊明シャプラニール前カトマンズ事務所長による「働く子ども支援活動」

報告会。一人ひとりの子ども達が抱えている問題を知り、それぞれの可能性を大切にする。試行錯誤の過程を、笑いあり涙ありの実体験を元にお伝えします。

参加費: 300円(事前申込不要)

主催: シャプラニール仙台・ボンドウの会

問い合わせ:

TEL&FAX 022-377-1407

(原)

11 / 4・18・25

「生涯青春・人生寄り道講座」

日時: 11月4・18・25日

(いずれも土曜)13:00~15:00

場所: 研修室2

内容: ちょっと一息、心の小高い丘に登り周りを見渡してみませんか?自分探しや人生の道に迷った時、過去と祖先歴史を訪ねると新たな自分の居場所・道標を発見できます。現在を知り、過去を訪ね、未来を考える人生寄り道講座です。

参加費: 全3回500円(教材費)
(事前申込必要)

主催: 宮城県社会福祉協議会(いきいきSUNクラブ)

問い合わせ:

TEL 022-223-1171(藤原)

11 / 4・11 ~

「脳トレ塾」サポーター
養成講座

日時: 11月4・11・18・25日

(いずれも土曜)10:00~12:00

場所: 11/11のみ研修室2

他、研修室1

内容：「高齢者にふさわしい独自の学習材料」を制作し、「脳の活性化を目指す塾」＝「脳トレ塾」の展開を目標にしている団体です。月曜日が火曜日の10時～12時に活動できるボランティア支援者として、継続して参加できる方をお待ちしています。

参加費：2,000円(事前申込必要)

主催：脳トレーニング協会

問い合わせ：

TEL&FAX 022-373-1468

(佐藤)

11/5・7

「ベビー＆チャイルドマッサージ教室」

日時：11月5日(日)・7日(火)
10:30～12:00

場所：研修室3

内容：ママのやさしい手で、お子さんへのマッサージをしてみませんか？忙しい家事育児の合間のほんのちょっとしたのふれあいタイムが、親子の絆を深めより良い関係を築いてくれることでしょう。ママが子育てを楽しめるよう願っています。(持物：バスタオル2枚)

参加費：3,000円(材料代・資料代・ハーブティー・ノンシュガーおやつ付)(事前申込必要)

主催：ママと子のサポーター「ハートエッセンス」

問い合わせ：

TEL 090-2952-6845

FAX 022-268-4042(三浦)

(宛先にレターケースNo.61と明記のうえ送信)

11/5・19

シニア元気笑学校

日時：11月5日(日)・19日(日)
13:20～16:30(両日とも)

場所：セミナーホール

内容：11月5日は、社会「新聞・みやぎシルバーネットの10年を振り返る」理科「長寿の秘訣は歯から」、交流。19

日は園工「高齢者近未来の暮らし方」、修身「仕事探しは自分探し」、交流。キーワードは、参加する、実践する、楽しむ、です。

参加費：1,000円(事前申込必要)

主催：シニア元気笑学校

問い合わせ：

TEL 022-248-3765

FAX 022-248-3775

(渡辺源治)

11/8

コミュニティの自立シンポジウム

日時：11月8日(水)13:30～17:00

場所：セミナーホール

内容：コミュニティの問題を自分達で考え、力を合わせて解決していく。それが住民自治です。まだまだ行政まかせの私達。英国では、コミュニティ活動をサポートする専門組織もあります。コミュニティの自立に向けた様々な仕組みを考えます。

参加費：無料(事前申込必要)

主催：財団法人

東北開発研究センター

問い合わせ：

TEL 022-222-3394

FAX 022-222-3357(大泉)

11/13・15・17

保育サポーター養成講座

開催のご案内

日時：11月13日(月)9:30～16:00、

15日(水)10:00～16:00、

17日(金)9:30～16:00

場所：セミナーホール

内容：子育て中の家族を支援するために、子どもを預かったり保育所の送り迎えなどの活動をする「保育サポーター」を養成します。対象は子育て経験のある方又は保育士資格のある方で保育サポート活動を望んでいる方です。

参加費：4,000円(教材・保険料含む)(事前申込必要)

主催：(財)21世紀職業財団宮城事務所

問い合わせ：

TEL 022-214-2080

FAX 022-214-2520(高橋)

11/16

NPO・企業パートナーシップセミナー「元気な地域づくりと信頼される企業」

日時：11月16日(木)

13:30～16:30

場所：セミナーホール

内容：企業と社会の新しい関わり方として、元気な地域づくりにNPOとの協働によって取り組む企業の姿を紹介しながら、社会貢献の新しい形、そして地元企業にとってのCSR(企業の社会的責任)の取り組みを提案します。

参加費：無料(事前申込必要)

主催：特定非営利活動法人せんだい

い・みやぎNPOセンター、

サポート資源提供システム

運営委員会

問い合わせ：

TEL 022-264-1281

FAX 022-264-1209(青木)

11/22

手書きPOP講座基礎編

「プロが指南！やさしいPOP表現のコツ」

日時：11月22日(水)

19:00～20:30

場所：研修室2

内容：POPとは色々な売り場やイベント会場などに貼ってある現場での広報ツールの事です。紙とフェルトペンがあれば手軽に効果的にどなたでも制作できます。基礎編では、文字のレタリングとレイアウトを学んでゆきます。

参加費：1,000円(事前申込必要)

主催：NPOメディアデザイン

問い合わせ：

TEL 090-3049-0613(千葉)

11 / 23

脊椎矯正と食育で P P K 第 1 回

日時：11月23日(木)
13:00~17:00

場所：研修室 5

内容：脊椎矯正をご存知ですか？
今回は第 1 回目として、背骨のゆがみを、専門の先生に診ていただけます。そして、生活習慣病のポイントを質問しながら、自分に合った健康法を考えましょう。
講師：沼田治療院 沼田明美、食育指導 福岡代志子
参加費：無料(事前申込不要)
主催：ハッピーファミリー P P K を考える会

問い合わせ：

TEL 022-272-7294

FAX 022-233-7294 (沼田)

11 / 26

ボランティア相談カフェ

日時：11月26日(日)
12:00~16:00

場所：セミナーホール

内容：「ボランティアをしたいけど、どこに相談したらいいの？」そんなあなたの想いにお答えします。ボランティアとともに活動している N P O が相談を受け付けます。カフェ感覚でお気軽にお立ち寄りください。おいしいお茶・お菓子つき。

参加費：無料(事前申込不要)

主催：せんだい C A R E S 2006 実行委員会

問い合わせ：

TEL 022-264-1281

FAX 022-264-1209

(紅邑・青木)

展示スペースの催し

11 / 2 ~ 14

ネパールの子もたちが撮ったぼく・わたしの暮らし

日時：11月2日(木)~14日(火)

場所：5 F 展示スペース

内容：ネパールの 17 人の子もたちが、カメラを手に「ぼく・わたしの暮らし」を撮りました。子ども達の瞳に映った世界はどんな世界なのでしょう。写真の奥に見える彼らの生活、気持ちを想像してみてください。

参加費：無料(事前申込不要)

主催：シャプラニール仙台・ボンドウの会

問い合わせ：

TEL & FAX 022-377-1407

(原)

市民活動シアターの催し

11 / 4 ~

仙台演劇祭 2006

10-B O X セレクション

1) 演劇と芸能

慙愧丸プロジェクト

21世紀大衆紙芝居

「蛇蝎姫と慙愧丸」

日時：11月4日(土) 19:00~

5日(日) 14:00~

6日(月) 19:00~

前売り：一般 2,000 円

学生 1,500 円

2) 演劇と東北

弘前劇場公演「夏の匂い」

日時：11月11日(土) 20:00~

12日(日) 13:00~

16:00~

前売り：一般 2,800 円

学生 1,000 円

3) 演劇と戯曲

遊劇体公演「闇光る」

日時：11月18日(土) 19:00~

19日(日) 15:00~

20日(月) 19:00~

前売り：一般 2,000 円

学生 1,500 円

場所：市民活動シアター

内容：演劇は時代を映す鏡と言われます。生身の人間がその日、その時、その場に集う特別な場所=劇場には、ある真実があるのでしょうか。三つの舞台、三つの手法、三つの視点を通し、私たちの<今>を「市民活動シアター」で感じてください。

主催：仙台市・(財)仙台市市民文化事業団

問い合わせ：

TEL 022-782-7510

FAX 022-235-8610(ヤマキ)

ぱれっと 10月号(9月20日発行号)に掲載した、市民活動シアターオープン記念イベントの10月の予定表(P7)の内容に間違いがありました。正しくは下記のとおりです。関係者の皆さまに深くお詫び申し上げます。

催事名(内容)	日時		入場料	お問い合わせ先
劇団 I.Q150・Gin's Bar 共同企画 「コメディ×コメディ」	10/27(金)	19:30~21:30	一般 3,000 円(当日 3,300 円) 学生 1,500 円(当日 1,800 円) 千秋楽(平日マチネ)割引 一般 2,500 円(当日 2,800 円) 10/31(火)14:00~のみ	劇団 I.Q150 電話 295・5962
	10/28(土)	12:00~14:00		
		15:30~17:30		
		20:00~21:00		
仙台を舞台にしたオリジナル コメディ 2 作品を上演	10/29(日)	12:00~13:00	一般 2,000 円(当日 2,300 円) 学生 1,000 円(当日 1,300 円) 千秋楽(平日マチネ)割引 一般 1,500 円(当日 1,800 円) 10/30(月)14:00~のみ	Gin's Bar スタジオ 電話 050・7545・4533 (19~22時まで)
	10/30(月)	15:30~17:30		
		14:00~15:00		
作品 劇団 I.Q150 公演「大安吉日」	10/30(月)	19:30~21:30		
		19:30~21:30		
作品 井伏銀太郎プロデュース Gin's Bar 公演 色彩シリーズ Act.2 「MAUVE-煙草を吸うさかな-」	10/31(火)	14:00~16:00	作品・共通チケット 一般 4,500 円(各作品を 1 回ずつご覧になれます)	



お知らせ

NPOマネジメントワークショップ

受講者募集



伝わらなきイミがない！団体のPR大作戦

<日時> 2006年12月2日(土) 14:00~16:00

<講師> 小松 州子さん

仙台市市民活動サポートセンタースタッフ

団体の活力UP！ボランティアマネジメント

<日時> 2006年12月2日(土) 18:30~20:30

<講師> 真壁 さおりさん

仙台市市民活動サポートセンター 副センター長

【各回とも】

参加費：500円

定員：20名(先着)

会場：仙台市市民活動サポートセンター
6F セミナーホール

【申込み・問合せ】

仙台市市民活動サポートセンター

TEL: 022-212-3010 FAX: 022-268-4042

案内図

新サポセン移転場所のご案内

サポセンは9月1日から一番町に移転オープンしました。

新住所 〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

電話: 022-212-3010 FAX: 022-268-4042

<http://www.sapo-sen.jp>

みなさんのご来館をお待ちしています！



ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。

[バス] 商工会議所前下車徒歩3分

[地下鉄] 広瀬通駅西5番出口すぐ

当施設に駐車場・駐輪場はございません。

お車や自転車で来館される方は、

周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。

注) 路上駐車は周辺の迷惑となりますのでおやめください。

仙台市市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちが、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

サポートセンターのサービスあれこれ

貸室(研修室・セミナーホール・市民活動シアター / 有料)

打合わせ、講演会、シンポジウム等で使えます。

ロッカー(有料)・レターケース(無料)・事務用ブース(有料)

交流サロン

少人数の打合わせに予約なしで使えるフリースペース(無料)

チラシ・ポスターの掲示、展示スペース、インターネット接続スペース(要申込/無料)

情報サロン

市民活動団体に関するさまざまな情報があります。

市民活動相談の受付や図書の閲覧・貸出も行っています。

市民活動に関する情報収集用インターネット閲覧(無料)

印刷作業室

印刷機(紙持ち込み / 1製版 100円)、紙折り機(無料)、

コピー機(1枚 10円)

開館時間 平日 / 午前9時～午後10時

日曜・祝日 / 午前9時～午後6時

臨時休館日のお知らせ(施設点検等のため)

11/29(水) 12/27(水)

12/29(金)～1/3(水)

発行: 仙台市市民活動サポートセンター
〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3
TEL: 022-212-3010 FAX: 022-268-4042
ホームページ <http://www.sapo-sen.jp>
リニューアルオープンしました。ご覧ください！

発行日: 2006年10月20日
編集: 特定非営利活動法人 せんだい・みやぎ NPOセンター
編集人: 真壁さおり 本田ふみ
イラスト: 「ボランティア・市民活動カット集」
(社会福祉法人 大阪ボランティア協会)

古紙 100% 使用再生紙を使用しています。
大豆油インキを使用しています。



ご感想・ご意見をお待ちしています！